Newsletter
Vol. 14
2011. DEC.
Graduate School of Mathematics
NAGOYA UNIVERSITY
名古屋大学 大学院多元数理科学研究科

教育研究支援室を訪れる人たちの顔ぶれに随分外国の方が増えてきました。留学生、外国人特別研究員、訪問研究者、特任教員、専任教員… 国も身分もバラエティに富んでいます。名古屋大学で学びあるいは教育研究に従事する方々がスムーズに名古屋大学での生活をスタートできるように、また快適に過ごせるように体制を整える努力をしています。今号ではG30の教員の紹介、国際学術交流、留学生の活動などをお知らせいたします。

国際化拠点整備事業によるプログラムスタート
(グローバル30)

国際化拠点整備事業(以下、グローバル30)は、「我が国の高等教育における国際競争力の強化」及び「留学生等にとって魅力的な水準の教育等を提供するとともに留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成」を図ることを目的として、大学の機能に応じた質の高い教育と、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供する国際化拠点の形成に向けた取り組みを総合的に支援するものです。2020年を目標とする「留学生30万人計画」の一環として、高い教育と留学生への環境整備に合わせ、大学の国際化を図るプログラムです。名古屋大学は平成21年度グローバル30の拠点として採択され、今年度10月から、英語だけで教育が提供できる国際プログラムを開始しました。全ての授業が英語で行われるため、英語のみで卒業し、学位を取得することができます。

多元数理科学研究科では名古屋大学グローバル30国際プログラム群物理数理系プログラムに参加し、9月にはこのプログラムを担当する外国人教員を2名迎えました。専任の教員と同様に,全学教育科目および多元数理科学研究科の授業科目を担当し、オフィスアワーを持ち,学生に履修指導を行い,その他の通常の教育業務に付帯する業務を行っています。10月からこのプログラムにおける教育を担当しているお二人の教員に、自己紹介を兼ねて抱負・感想を伺いました。

小崎和子

わくわくしながら新しいベンチャーに貢献

微積分の授業にて

私の名前はファビアン トリアンです。数論幾何を専門とするフランスの数学者です。この9月から名古屋大学のG30プログラムに参加するまでは、イギリスのノッティンガム大学で教育・研究に従事していました。現在、同僚のマーチン ヘルシェンとともに、G30の新入生のコースを担当しています。マーチンは、線形代数のコースを、私は微積分のコースを教えています。

私と日本の関係はもう10年以上になります。1999年にJSPSのフェローとして2ヶ月間滞在したのが最初です。そのとき私はすぐにこの国の虜になりました。そして翌年から2年間、JSPSの外国人特別研究員として滞在することになりました。残念ながら未だに納豆、刺身、寿司のよさはわかりませんが、私は日本の文化や社会のあらゆる側面を大いに楽しんでいます。名古屋は、特に豊かな食文化があるという点で、日本で訪れてみたかった大好きな都市のひとつです。名古屋大学で教育・研究の機会を得て、この名古屋で手羽先や味噌カツを好きなだけ楽しむことができるのですから、とってもラッキーだと感じています。

G30プログラムは外国人留学生及び海外留学日本人留学生の数を大幅に増やすことを目指しています。これは英語を話す人の数がまだまだ不足している日本の国際化に向けた意欲的なステップです。幸運なことに多元数理科学研究科では、G30プログラム開始以前から、国際化に向けた体制が確立していて、教員だけでなく、秘書たちの間でも英語はよく話されていました。ですから、何の困難もなく新しい環境に慣れることができ、名古屋での新しい生活をスタートすることができました。

G30プログラムの学生37名は、多様なバックグラウンドを持ち世界中(中国、メキシコ、米国、ウズベキスタン、モンゴル、韓国、等)から集まっています。日本語クラス(週6時間)に加え、すべての授業が英語で行われます。私たちが担当する講義の内容は全て学部の授業内容に相当し、日本の大学教育のレベルに対応するよう構想されています。私たちは、このコースが名古屋大学のすべての日本人学生にも、近い将来オープンになることを期待しています。

全体として、これまでのところ非常にうまくいっていると思います。留学生のグループは、非常にダイナミックで勤勉です。我々のプログラムのスタッフもまた、非常にやる気があって協力的です。この新しいベンチャーに参加することはわくわくする体験であり、私はその成功にベストを尽くして貢献したいと願っています。

(訳　小崎和子)

活発でフレンドリーな雰囲気の中で

大学院向け講義にて

マーチン ヘルシェンと言います。G30プログラムにおける数学の科目を教えています。

スウェーデンのウプサラに生まれ、2008年5月に博士の学位を取得するまでそこに住んでいました。学位取得の数ヶ月後、私は名古屋大学でJSPSの外国人特別研究員として新しい生活をスタートするために初めて日本に来ることになりました。伊山修教授との研究を進めるために2年間滞在しましたが、最初から多元数理科学研究科の活発でフレンドリーな雰囲気がとても好きでした。ですからG30プログラムの教員としてまたここに戻れたことをとてもうれしく思っています。

私の専門は有限次元代数の表現論で、今学期はこのテーマで多元数理科学研究科の大学院生を教えています。また、この秋から入学したG30プログラムの学部学生に線形代数を教えています。私は、自分が3年前に初めて日本に来たときのことを思い、G30プログラムの新入生の状況が手に取るようにわかります。ですから彼らの名古屋での時間を最大限に活かすことができるよう手助けしたいと思います。

2011年11月20日は私にとってとても重要な日となりました。結婚しました!

結婚式は京都の平安神宮で執り行われ、日本からのゲストとスウェーデンから両親や友人が参列しました。それはとても興味深い文化の出会いで、双方にとって有益なものでした。私の新しい日本の家族、親戚は近い将来スウェーデンを訪れることでしょう。

私にとってこのイベントはまた、JSPSやG30によって提供される国際的なプログラムが生む歓迎すべき副産物のひとつです。

(訳　小崎和子)

グローバル30国際プログラム群物理数理系プログラムの博士後期課程の学生としてメキシコからハッソ・グスタボさんが10月に入学しました。しばらく日本で学生生活を送った今、彼は母国メキシコと日本の大いなる文化の違いに戸惑いながらも、周りの大学院生たちのサポートにより少しずつ名古屋大学の学生としての日常に馴染み始めているようです。そして何よりも、指導を仰ぎたいと願っていた教員との研究に意欲を燃やしながら充実感を抱いています。

(関連記事　中面右「新しく留学生を迎えて」)

ハッソさん ―セミナーにて―

学生プロジェクトの活動紹介
～ 今年度の活動紹介 ～

学生プロジェクトによるセミナーの様子

学生自らが計画・実行する学生プロジェクト、今年度は15グループ（研究13チーム、院生キャリア支援2チーム）が活動しています。活動期間も半ばを過ぎ、ラストスパートに向けて活発に活動している様子を、今回は5チームに紹介してもらいました。　三嶋ひかる

クラスター代数とその周辺　小西正秀（足立崇英Gr.）

本プロジェクトは、前期は毎週セミナーを行い、クラスター代数の基礎理解を深めました。また、東京大学で行われたクラスター代数に関係する集中講義に出席し、その展望の一部を見ました。後期においては各々が専門分野の知識を活かし、興味を持った論文を読み、二週間に一度その内容を発表しあうセミナーを行う予定です。

幅広い数論　佐々木太一

我々の学生プロジェクトでは鏡ヶ池の整数論セミナーを運営しており、これまで6,7,9,11月にセミナーを開催しました。このセミナーでは、数論に関係する分野の研究について、多元の方、他大学の方にお話ししていただいており、12月以降についても、日程は未定ですがセミナーを開催していく予定です。

Dixmier-Douady 類　鈴木直矢

本プロジェクトの一環として、9月に中国で開かれた研究集会「Geometry and Quantization 2011」に参加して来ました。その際森吉先生、小林先生を始め多くの方々に大変お世話になりました。数学に関しては無論の事、色々な意味で刺激を受けることができたと思います。（それにしても私はよく中国人と間違われました。）今後は3月に他大学の先生による集中講義を行う予定です。

F-純性を中心とした正標数の可換環の研究　松田一徳

8月に名古屋大学で行われた「第8回可換環論サマースクール」において、大阪大学の東谷章弘氏を招聘しました。また、会議費もプロジェクトの予算から使わせていただきました。さらに、9月に行われた日本数学会に参加し、松田は講演、千葉と保子は情報収集を行いました。今後は、「可換環論セミナー」等の研究集会に参加する予定です。

力学系と幾何学　椋野純一

当学生プロジェクトは、各メンバーの研究の活発化を目的にしています。これまで、学外活動として幾何学シンポジウム等の学外の研究集会に参加しました。メンバーの一人である椋野は，幾何学シンポジウムや東大のセミナー等で講演発表を行い、他大学の学生と交流をもつことができました。学内活動として、メンバーが論文紹介をすることを計画していましたが、前期はあまり開催することができませんでした。今後は、学内セミナーを活発に行いたいと考えています。

ルース駐日大使との懇談会

米国領事館・名古屋アメリカンセンターを通じて、ルース駐日米国大使の名古屋大学への来訪及び名古屋大学に在籍している日本人学生との懇談について依頼があり、11月25日（金）にそれが実現しました。ルース大使のスピーチの後、参加学生から活発に質問が飛び交ったようです。各部局からの推薦により名古屋大学全体で150名ほどの学生が参加しました。数理学科と多元数理科学研究科から参加した学生に感想を寄せていただきました。

▶今回ルース駐日大使との懇談会に参加させていただき、1時間半という短い間でしたが様々なことを学ぶとともに感銘を受けました。特に、現在、日本人でアメリカへ留学する学生が減少しており、アメリカと日本の関わりが薄くなってしまうことを懸念されているというお話が興味深かったです。僕自身、日本でだけでなくアメリカでも学問を学んでみたいという思いがありますので、躊躇することなくアメリカへ留学してみたいと改めて思いました。懇談会という形で貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。　（数理学科4年　矢野健太郎）

▶「TPPについてどうお考えですか?」
質疑応答になると学生から質問が飛ぶ。これを皮切りに、東日本大震災のトモダチ作戦、原発事故、日本人のアメリカ留学、中国の台頭、等々。大使のお答えを聞いて“日本を支えるんだ”というアメリカの強い意志を垣間見た。特に気に入った質問がある。「お薦めのアメリカ文学は？」答えは、スタインベック。次に私が読む小説が『怒りの葡萄』になることはいうまでもない。古き時代のカリフォルニアに想いを馳せることにしよう。　（M1　久米大郎）

大使に質問する才川さん

▶会場にやや緊張感のあるRoos大使との懇談会だったが、大使からの「日米の学生交流を再び盛んに」というメッセージは良く伝わった。米国への留学については、多くの学生に検討する価値があると思う。逆向きについては、是非教員の方々に盛り上げて頂きたい。　（D1　才川隆文）

イノベーション創出若手研究者養成・学生プロジェクト
b-jin共同・研究者養成プロジェクト

訪問先IHI 前にて

試験的な段階にある本プロジェクトだが、ビジネス人材育成センター（b-jin.jp）からの的確な支援を頂いて活動している。
10月のIHI訪問では、企業と交流の持ち方、題材の提案の仕方などについて多くの知見を得た一方で、具体的な問題発見・設定については、両者の専門性の隔たりが想像以上に大きいと知った。問題発見の可能性と企業への説得力を高めるため、今後さらに広い分野から、学生の積極的な参加が欲しい。　（D1 才川隆文）

企業と博士後期課程の学生、特に私たち数学科の学生との間に接点は非常に少なく、お互いに何をやっているかをそもそも知らない。そこで、博士後期課程の学生が主体となり企業の側に、数学の学生はどのようなことができるかを知ってもらうと同時に、こちらも企業を知り、数学が実社会の中でどのように生かせるかということを学ぶことを目的としている。その手始めとして、今回はIHIに訪問し話をする機会をいただいた。　（D3 斎藤克典）

教員採用試験合格をめざして
～ 来年度に向けて ～

来年度に向けて
講演会開催

4月、7月、8月の開催に続き、今年度第4回目の「教員採用試験合格を目指して」を開催しました。今回は来年度に向けて、試験日程と内容、それぞれの試験の特徴などについて講演があり、早い時期からよりよい対策を本気で立てていくことの重要性が語られました。
第3回目までの講演を受講して教員採用試験に合格した学生からは、自らの体験と的確なアドバイスを熱心に語ってくれた講師への感謝と、次は自分たちが後輩へそれを伝えていくことの重要性が表明されました。先輩から後輩への確かなバトンタッチです。　小崎和子

秋の夜長に焼き肉で交流
多元恒例「バーベキューパーティ」

焼ける、焼ける

多元数理科学研究科では、学生、教職員の交流を深める目的で、カレー、焼き肉などをみんなで楽しむ食事会を学生主催による恒例行事として行っています。今年は数理学科の3年生が後輩の1、2年生を招いて焼き肉で歓迎するという主旨で「バーベキューパーティ」が多元数理科学棟の前庭で行われました。参加者は、学部学生を中心に、大学院生、教職員の他、ゲストとして多元を訪れていた外国人講師まで、多様な顔ぶれ。会場に集まった多くの参加者が焼き肉を囲んで、秋の夜長の楽しい時間を過ごしました。

ここで、パーティ開催の告知から肉の買い出し、下ごしらえから会場設営まで、全てを引き受けて頑張った3年生スタッフの中から西尾拓朗さん、平子裕記さん（代表）に話を聞いてみましょう。

Q1. 手応え、全般的な感想を聞かせてください。
「思っていた以上に参加者がいたので手応えはそこそこあったと思います。特に1年生が多く参加してもらって良かったと思いました。」　西尾

Q2. 苦労した点は何ですか？
「買い出しに関して、食材等が売り切れている時どうするかはその場に行かないと分からないので少し悩みました。」　西尾

Q3. 今回、上手くいった点は何ですか？
「予算を大幅に削減できたことです。具体的には、アルコール類を一切買わない、リーズナブルなオードブルを頼めるお店で注文した、この2点です。スケジュールからもっと計画的に行えば、年1回開催を半年1回開催にできそうです。」　平子

という頼もしい話が聞けたところで、パーティのスタッフを引き受けてくれた方々に、この場を借りてぜひお礼を述べさせていただきたいと思います。本当にご苦労さまでした。　野地賢一

新しく留学生を迎えて

秋学期が始まり、多元数理科学研究科にも新しい留学生がやってきました。ハッソ・グスタボさん（メキシコ）、劉裕さん（中国）の2名です。
今季は、留学生歓迎パーティーや第2回目となるミニプレゼンテーションも行われ、新しく多元に加わったメンバーには日本での新生活に馴染む良い機会になったのではないでしょうか。
そんな2人からのメッセージを紹介します。　渡邉ゆかり

劉 裕： 私は、留学生会館に住んでいて、そこでの生活はとても楽しいです。日本へ来るのは初めてなのですが、来日前に日本語を1年間勉強していました。
中国人学生の多くが“日本語は、勉強すればするほどむずかしくなる”と言います。わたしもそう思いますが、自由に話しをするために頑張って日本語も勉強しています。専門の数学の勉強は簡単ではありませんが、ならっていくうちに少しずつ慣れていくでしょう。卒業後も表現論の研究を続けるつもりです。

ハッソ： I decided to come to Nagoya University because I had particular interest in working with Prof. Iyama, who is my advisor now. I am lucky to live at the Ishida Memorial International Residence Myoken, a new student residence very close to the university. So far, language has not been as much of a barrier as I expected it to be. Japanese language classes are helping: I feel I am learning a lot, even though I cannot speak Japanese at all! But there are also strong cultural differences between Mexico (my home country) and Japan. I assist two seminars, on representation theory of algebras and on representation theory of groups. My plans after studying here are to pursue a research career as a mathematician and to teach as much as I can. I am happy to have the opportunity to spend this very important part of my academic life at Nagoya University.

第2回目のプレゼンイベントでは、前回終了後に行ったアンケートをもとに発表者と参加者との距離を少し縮めてみました。ぜひ発表したいという留学生達が、流暢に日本語を使い発表する姿に心打たれました。日々何気なく過ごしていると忘れがちな何か大事なことを思い出し、新たな気付きのある素敵な時間となりました。私たちが、彼らに発表する機会を与えていた気でいたのが、逆にたくさんのいただきものをもらってしまったようです。参加していただいた皆さんありがとうございました! 日本人学生の発表＆参加もお待ちしています。　渡邉ゆかり

留学生歓迎パーティにて

留学生交流イベント　発表する朴さん

進路指導・キャリア教育支援

進路指導・キャリア教育支援の一環として12月9日（金）に「企業セミナー・ミニ同窓会」が行われました。この会は先輩方の体験談を通じて学生自身が己の将来を考える手助けとなればと毎年開催しているものです。年末が近づく慌ただしい時期でしたが、31社のOBの方々からお話を伺うことができました。資料では分からない社会でのご苦労や雰囲気を直に聞くことは、通常の企業案内よりも価値のあるものです。
また、セミナー終了後には卒業生と在校生を繋ぐ目的で「ミニ同窓会」が開催されました。むしろ、こちらを楽しみにしているOB・学生達が多く、会場が窮屈な程の盛り上がり様で、実社会で活躍している方々の本音を引き出す良い機会となったようです。　田中美穂子

企業の説明を熱心に聞く学生たち

ミニ同窓会の様子

南京大学訪問
～ 学術交流覚書締結に向けて ～

暑かった夏に別れを告げ、ようやく秋の気配を感じ始めた10月8,9,10日の3日間南京大学を訪問しました。8月に名古屋大学に伊山修教授との共同研究のため滞在していた南京大学の黄兆泳教授との話合いが発端となり、その後の提案により実現したものです。
南京大学では、多元数理科学研究科における研究や教育システムについて木村芳文研究科長が有益な情報を提供するプレゼンテーションを行った後、南京大学から当研究科に留学中の駱雪玉さんが自身の留学までのプロセスや体験談、多元数理科学研究科での研究活動、日常生活等について生き生きと語り、参加者の関心を集めました。40名を越える参加者は熱心に耳を傾けている様子で、プレゼン後には活発な質問も飛び出していました。学生たちの活気のあるまなざしがとても印象的でした。
説明会の後は、訪問のもう一つの目的である学術交流に関する覚書の締結についても話合いが行なわれ、双方の数学教室における教育、研究活動の交流発展を期して覚書締結に向けて準備を進めることを確認し合いました。これを受けて3月には南京大学から4名の代表団を迎え、覚書の調印式を行う予定で準備が進んでいます。　小崎和子

説明会案内掲示

留学の体験を語る
駱雪玉さん

熱心に説明を聞く南京大学の学生たち

高大連携、地域との連携の強化をめざして

多元数理科学研究科では高大連携、地域との連携を深めるため、毎年高校生及び高校教員を対象とした公開講座「数学アゴラ」、対象に一般の方も含めた「秋の公開講座」を開催し情報発信に努めています。昨年からは愛知県の「知の探究講座」とタイアップし、より充実した講座を開催しています。また、高校の現場からの声を直に取り入れるために地域連絡会議を開催しています。

◎秋の公開講座

講義に耳を傾ける受講生達

今年も「数学公開講座」が10月22日（土）、10月29日（土）、11月12日（土）に開催されました。昨年同様、愛知県教育委員会の「知の探究講座」とのタイアップです。公開講座のみの申込者は50人強でしたが、そのうち遠方（東海3県以外）からの参加者が10名以上もあり、本講座の密かな人気の高さが伺われます。開催初日はあいにくのお天気で、雨音が聞こえる静謐な時間のなか講義の声だけが響いていました。講義と講義の間の休憩時間には自らの頭の中を切り換えるためか、リフレッシュスペースでお茶を飲み、のんびりと過ごしている様子が伺えました。期間中は学部生の現代数学研究の自主学習グループ発表のパネルが展示されており、参加者の興味を引いていました。　田中美穂子

◎知の探究講座　講座別発表会

発表する高校生

12月10日（土）「数学アゴラ」、「秋の公開講座」を通して学んだ課題について、高校生25名が自らの視点で取組んだたくさんの優れた発表が行なわれました。それぞれに工夫・苦労の跡が見られ、与えられた時間をきっちり使って発表し、講師達からの質問に対しても彼らなりの言葉で真摯に答えていました。この日は皆既月食の日、帰りがけには「今日は皆既月食を見るぞ」という元気な声も響いていました。発表者の中から代表1名が選出され1月28日に開催される「全体発表会」に参加します。　小崎和子

◎地域連絡会議

地域連絡会議

「数学アゴラ」の開催にあたっては、地域の意見を取り入れるため「地域連絡会議」を構成し、東海三県の高校の現役教員及び教育委員会指導主事にも委員を委嘱し年間1－2回の頻度で公開講座開催の参考とするため、会議を開催しています。12月10日「知の探究講座」講座別発表会終了後、地域連絡会議が開催されました。講座別発表会に参加した教諭からの感想や意見に始まり、「数学アゴラ」、「高大連携の現状と将来について」は忌憚のない意見交換が行なわれました。高校の現場からの貴重な意見は今後の活動に活かされることになっています。

多元数理科学研究科より

入試情報

名古屋大学大学院 多元数理科学研究科

大学院 前期課程
（第2次募集）
入学試験・合格発表
2012年2月7日（火）

大学院 後期課程
（冬期募集）
入学試験・合格発表
2012年2月8日（水）

願書受付期間
2012年1月5日（木）～1月19日（木）

後期課程入進学相談会

第1回～第3回まで終了。
第4回　2012年1月21日㊏
13:00～（1月18日事前登録締切）

冬期募集に先立ち、当研究科後期課程への入進学希望者を対象に相談会を開催しています。修士1年次の学生の参加も歓迎!!

後期課程入進学相談会の様子

詳細は以下をご覧ください。
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/admission/2012/dc-meeting.html

ホームカミングデイ　10月15日

2011年10月15日（土）、第7回名古屋大学ホームカミングデイが開催されました。数理学科・多元数理科学研究科の独自企画として、保護者会懇談会と講演会を開催しました。保護者懇談会では数理学科・多元数理科学研究科における教育システムの説明を行い、保護者の方々からの質問にも答えました。引き続き大沢健夫教授による「科学と価値について」と題する講演があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。　小崎和子

講演する大沢健夫教授

就職進学説明会　10月26日

主に学部3年、前期課程1年を対象として、名古屋大学就職相談室の教員による就職活動に関する講演のほか、今年実際に就職活動、前期課程の入試受検、教員採用試験などを経験した学生の体験談が話されました。それぞれの講演には資料が配布され、就職進学に関する情報収集の場となりました。名古屋大学就職相談室の船津先生のお話ではメルマガの登録は必須のこと、就活を行うみなさん是非登録しましょう。　片田栄里

就職相談室から

登録はここから▶ http://syusyoku.jimu.nagoya-u.ac.jp/merumaga/

数理学科説明会　11月9日

2年進級時の学科分属に先立ち、理学部1年生を対象とした数理学科説明会を開催しました。教員および在校生による数理学科での学習内容や卒業後の進路についての講演を通して、参加者に数理学科への興味・理解を深めてもらうと共に、来年度の学科分属の参考となることを目的としています。講演では学生の作成したレジュメ等が配布され、メモを取り熱心に講演に耳を傾ける学生の姿も見受けられました。説明会後の懇親会ではお茶とお菓子を囲みながら、教員と学生が自由な雰囲気のなか歓談しました。　片田栄里

学部1年生を対象に

教育研究支援室より

12月の初め、多元数理科学研究科では毎年ミニ同窓会を開催しています。そこには会場に収まり切らない程、数多くの同窓生の皆さんが集まります。
あちらこちらで昔話に花が咲き、会は終始大盛り上がり。その中で私の楽しみの1つは、自分が多元数理で教務を担当し始めたばかりの頃に学生だった彼らと再会することです。修了式に「また会いましょう」と言葉を交わし、それから数年…スーツを着こなし「仕事帰りに飛んできました」と、社会で頑張っている風貌の彼らを見て、私はすっかり親戚のおばちゃん気分で、毎度「大きくなったね～」なんて言ってしまいます。
支援室の一員として、同窓生の皆さんの記憶の片隅に残れていることは業務をする上でとても励みになっています。この先も、これから巣立っていくたくさんの学生の記憶に残れるよう、社会に出て頑張っている彼らに負けないよう、いつまでも日々精進。　片田栄里

編集後記

2011年、早くも師走を迎え、世の中も年末の慌ただしい雰囲気になってきたようです。我々、多元数理科学研究科も卒業論文、修士論文の追い込みや入学試験の準備など年度末に予定されている重要行事に向けて、学生、教職員ともテンションアップの日々を過ごしています。ところで、今号は国際色豊かな記事が多かったと思います。グローバル30の紹介、ルース米国大使との懇談会、南京大学への表敬訪問や多元が迎えた新留学生のことなど、多元数理科学研究科でも海外の個性豊かな人材との活発な交流が行われていることを知って頂けたら幸いです。　野地賢一

名古屋大学 大学院多元数理科学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
TEL（052）789-2833　FAX（052）789-5397

企画編集　教育研究支援室